

令和3年 6月 1日

教 職 員 各 位

研究報告編集委員会委員長

令和3年度研究報告原稿の提出について(通知)

令和3年度の研究報告に投稿希望の方は、下記により原稿を提出してください。
なお、「研究報告編集に関する規則」、「研究報告執筆及び投稿要項」及び「版下原稿見本」を添付しますので、原稿の執筆及び投稿に当たってはご注意願います。
(今回の添付分は、図書館のホームページの利用者別案内「本校教員・技術職員」研究報告への投稿欄にも掲載しています。)

<https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/library/library-guide/>

記

(1)原稿提出締切日時:令和3年10月1日(金) 17時(厳守)

(2)原稿提出先:学生課図書係

(3) 投稿の方法は、以下のいずれかで提出してください。

- ①投稿票のコピーを添付した封筒に、投稿票1部及び論文の版下原稿のコピー2部を封入し(必ずのり付けすること。)、図書係に提出する。
- ②投稿票及び論文版下原稿のフォント埋め込みPDFファイルを、学内グループウェアで図書係に提出する。図書係は同ファイルを受け取り次第、投稿者へ受信完了の連絡をする。('研究報告執筆及び投稿要項'にも記載されています。)

注1. 平成15年度から「研究報告編集に関する規則」に著作権に関する規定が加わっていますので、ご注意ください。

注2. 過去に、「版下原稿見本」と著しく異なる原稿が見受けられました。添付の「版下原稿見本・サンプル」の電子ファイルを熟読の上、作成・提出するようご注意願います。

注3. 平成30年度からは、「研究報告の原稿は原則としてモノクロ(白黒)頁とする。
ただし、必要な場合はカラーも認める。」こととなりました。
よって、カラーの制限はありません。

注4. 今年度(令和3年度)より、研究報告の発行形態は電子媒体のみとし、冊子体の発行は行わないこととなりました。

注5. 研究報告中のAbstractは論文の一部とみなされますので、Abstractにつきましても「01_05(R03)研究報告通知等.pdf」後半記載の欧文・邦文各タイプ版下原稿見本の指示をよくお守りください。

都城工業高等専門学校研究報告編集に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の研究報告書の編集及び発行等に関し必要な事項を定める。

(名称)

第2条 研究報告書の名称は、「都城工業高等専門学校研究報告」（以下「研究報告」という。）とする。

なお、英語表記については、「Research Reports of National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College」とする。

(投稿資格)

第3条 研究報告に投稿することのできる者は、次に掲げる者とする。

(1) 本校教職員

(2) その他、第8条に規定する編集委員会で認めた者

(発行)

第4条 研究報告の発行日は、毎年1月20日とする。

2 研究報告の形式は、A4版左綴を原則とし、邦文は2段組、英文は1段組又は2段組とする。

(編集区分)

第5条 研究報告は、論文等の内容により掲載順に「研究論文」、「教育論文」及び「資料・紹介」に区分して編集する。

2 各区分における論文等の掲載順は、投稿者の所属学科等により、次のとおりとする。
ただし、投稿者がどの学科にも属さない場合は、論文等の内容により、第8条に規定する編集委員会で決定する。

一般科目（理）、応用数学、応用物理、機械工学科、電気情報工学科、情報教育センター、一般科目（化学）、物質工学科、建築学科、一般科目（文）

(投稿数)

第6条 研究報告に掲載する論文は、1人2編以内とする。

(投稿期間)

第7条 研究報告に掲載を希望する者は、毎年4月1日から10月1日17時までの間に論文等を校長に提出しなければならない。

(編集委員会)

第8条 研究報告を編集し、発行するため、編集委員会を置く。

2 編集委員会に関する事項は、別に定める。

(投稿上の注意)

第9条 研究報告には、原則として他の刊行物に発表した論文等は掲載しない。ただし、学会又は研究会等で発表したもの若しくは抄訳程度で発表したものを、新たに論文等としてまとめたものは、この限りでない。

- 2 前項ただし書きに該当する場合は、その旨を論文等末尾に注記しなければならない。
- 3 論文等が本校以外の者との共同執筆の場合には、当該者の所属機関を脚注しなければならない。

(著作権)

第10条 著者は、研究報告に掲載された「研究論文」、「教育論文」及び「資料・紹介」の複製権及び公衆送信権を、都城工業高等専門学校に委託するものとする。

(その他)

第11条 研究報告の論文等の執筆及び投稿に関する事項は、別に定める。

(事務)

第12条 研究報告に関する事務は、学生課において処理する。

附 則

この規則は、昭和52年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、昭和60年7月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年11月6日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年2月8日から施行する。

附 則

この規則は、令和元年11月6日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

都城工業高等専門学校研究報告執筆及び投稿要項

(趣旨)

第1条 都城工業高等専門学校研究報告編集に関する規則第11条の規定に基づき、研究報告の論文等の執筆及び投稿に関し必要な事項を定めるものとする。

(投稿論文の形式)

第2条 論文は、内容が完結したものでなければならない。

2 論文の記述は、「題名、著者名、概要 (Abstract 又はあらまし)、本文、参考文献」の順とする。謝辞を記載する場合は、本文の直後とする。注を記載する場合は、本文と参考文献の間とする。

3 題名は、論文の内容を適確に表現したものとする。また、副題を記載する場合は、主題を改行した直後の行とする。副題の記載方法は特に指定しない。

4 邦文横書きの場合は、欧文題名及びローマ字による著者名を併記する。邦文縦書きの場合は、欧文題名及びローマ字による著者名は記載しない。なお、記述形式は次の各号に従うものとする。

(1) 欧文題名の単語の頭文字は、接続詞、前置詞及び冠詞の場合を除き、大文字で記述する。

ただし、欧文題名の先頭の文字は大文字とし、名詞の後についてそれを修飾する分詞は筆者の判断による。

(2) ローマ字による著者名の形式は、差し支えのない限り「姓一名」の順とし、姓は全て大文字で、名は頭文字のみ大文字で記述する。

(3) 著者名が邦文の場合は「・」で区切り、欧文の場合は「,」及び「and」で区切る。著者は、氏名の右肩に上付きアラビア数字を付し、脚注に所属を記載する。

(例)

阿部一郎¹・井上二郎²・山田三郎³

ABE Ichirou¹, INOUE Jirou² and YAMADA Saburou³

(脚注の例)

1 都城工業高等専門学校機械工学科

Department of Mechanical Engineering,

National Institute of Technology (KOSEN), Miyakonojo College

2 東京工業大学工学部機械工学科

Dept. of Mechanical Engineering, Faculty of Engineering, Tokyo Institute of Technology

3 九州工業大学工学部機械工学科

Dept. of Mechanical Engineering, Faculty of Engineering, Kyushu Institute of Technology

(4) 脚注の記載方法は、各専門分野の形式に準ずる。

5 本文は、研究の目的・意義、方法、まとめ又は結論等を含むものとする。

- 6 受理年月日は、投稿者が投稿年月日を仮の日付として記載する。査読の結果、問題がなければ仮の受理年月日を正式の受理年月日として承認する。受理年月日は、概要が欧文の場合は欧文で、邦文の場合は邦文で記載する。邦文縦書き論文の場合は論文の最後に受理年月日を記載する。いずれの場合も（ ）書きとする。
- 7 概要は、研究の目的、方法、結論等を要約したものとし、欧文800字（150ワード）程度又は邦文600字程度とし、英語で記載することが望ましい。Abstract 又はあらましは太文字で記述する。
- 8 参考文献番号は、本文中に表した順に通し番号を表記する。
- (1) 本文中の参考文献番号は、上付きのアラビア数字で次のように記載する。
「…等の研究¹⁾によれば…、しかし、筆者等の一連の研究^{2~4)}では、…」
この、2~4) は、番号が連続する2)、3)、4)の文献を示す。
- (2) 論文末の参考文献は、「著者又は編集者名、著書又は論文名、発行機関名、頁、発行又は出版年」の順に記載し、英字と数字は半角文字とする。
- 9 注の番号は、本文中に表した順に通し番号を表記する。
本文中の注の番号は、上付きのアラビア数字で次のように記載する。
「…年に実施した調査^{注3)}によれば…。…双対尺度構成法^{注7)}によって、…」
ただし、論文末の注では「注」を用いず、3)、7)等と表記する。
- 10 キーワードを記載する場合は、概要の後に行を改め、「キーワード []」の形式で、[]内にキーワードを列記する。2行にわたる場合は2行目の先頭文字と「[]」を揃える。
キーワードは最大5個までとする。英語のキーワードは、頭文字を大文字で記述する。
- 11 資料等については、論文の形式に準ずる。
(投稿論文の原稿形式)

第3条 A4判用紙の版下原稿とする。

- 2 版下原稿の形式は、欧文横書き1段組、欧文横書き2段組、邦文横書き2段組及び邦文縦書き2段組の4種類とし、それぞれの「版下原稿見本」を基準に作成する。
- 3 原稿頁数は、4頁以上12頁以内とする。
- 4 資料等については、論文の原稿形式に準じ、刷り上がりの最大頁数は12頁とする。
(文章表現上の注意)

第4条 文章は、原則として常用漢字及び現代仮名遣いとする。

- 2 文中の外国語は原綴りとするが、固有名詞その他慣用されているものはカタカナで記載する。
- 3 数字は原則としてアラビア数字とする。ただし、縦書きの場合や固有名詞中のもの等については、この限りでない。
- 4 フォントは版下原稿見本に従う。
- 5 大・中・小見出しは、いずれも太文字とし、フォントは版下原稿見本に従う。見出しの数字と数字の間は半角のピリオドを打ち、最後の数字の後にはピリオドは打たない。大見出しの前後は1行ずつ空ける。中見出しの前は1行空け、見出しの後は改行する。

小見出しの前は1行空けず、見出しの後は改行する。見出しとしての「謝辞」と「参考文献」の頭には番号を付けず、それぞれの前後は1行ずつ空ける。

6 単位は、原則として国際単位系（SI 単位）を使用する。

7 式の番号は、（番号）の形式とする。

（図、表及び写真の作成要領）

第5条 図、表及び写真は必要最小限とする。

2 図、表及び写真には番号と表題を付け、英文表記とすることが望ましい。

3 図、表及び写真はカラーも可とする。

（投稿の方法）

第6条 投稿の方法は、次のいずれかの方法とする。

（1）投稿票のコピーを添付した封筒に、投稿票1部及び論文の版下原稿のコピー2部を封入し（必ずのり付けすること）、図書係に提出する。

（2）投稿票及び論文版下原稿のフォント埋め込みPDFファイルを、学内グループウェアで図書係に提出する。図書係は同ファイルを受け取り次第、投稿者へ受信完了の連絡をする。

2 研究報告編集委員会は、次の各項に掲げる全ての事項を調査し、いずれか満たさない事項がある場合は原則受理しない。

（1）投稿資格を満たしている。

（2）投稿票の記載内容と投稿原稿に相違がない。

（3）版下原稿見本に指示された段数、1段の行数及び1行の文字数である。

（4）版下原稿の頁数は、4頁以上12頁以内である。

（5）版下原稿に通し番号が鉛筆書きで記入されている。（記入場所は頁下部中央）

（6）投稿期限日時までに提出されている。（定刻以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。）

3 版下原稿は、査読終了後に、指示された期日までに提出する。

なお、提出後に論文の修正はできないので注意する。

査読後、訂正事項及び照会事項に挙げられた事項を修正すること以外の修正は認められない。

（校正の方法）

第7条 校正は、研究報告の発行日に影響するので、定められた期間内に行う。

2 校正は、著者が作成した部分以外について朱書きで行う。

（研究報告）

第8条 研究報告は、原則としてモノクロ（白黒）頁とする。ただし、必要な場合はカラーも認める。

附 則

1 この要項は、平成13年4月1日から施行する。

2 都城工業高等専門学校研究報告投稿上の留意事項（平成3年4月1日施行）は、廃止する。

附 則

この要項は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 19 年 6 月 11 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は、平成 23 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 24 年 3 月 2 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 27 年 7 月 9 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 30 年 3 月 26 日から施行する。

附 則

この要項は、令和元年 10 月 29 日から施行する。

附 則

この要項は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

【版下原稿見本(記入例)】

欧文横書き 1 段組 版下原稿見本(1/1)

1 頁 48 行設定

余白 25mm

欧文フォントは Times New Roman または Century の一方を用い、ギリシャ文字など特殊文字記号には適宜他のフォントを用いる。英数字、「,」、「.」、括弧等は半角とする。

用紙端から 40mm 程度

余白 20mm

Preparation of Cross-Linked Microcapsules Entrapping Inorganic Salt by In-situ

Polymerization in (W/O/W) Emulsion System

13mm 程度

※程度とは±2mm 以内

MIYAZAKI Shiro¹

(Accepted September XX,20XX)

13mm 程度

25mm 程度

余白 15mm

20mm 程度

Abstract Cross-linked microcapsules entrapping ascorbic acid magnesium salt as a core material were prepared by in-situ copolymerization of styrene and divinylbenzene in a (W/O/W) emulsion system. The effects of the preparation conditions of the microcapsules on the capsule morphologies, the entrapment efficiency and release profiles of the core material were investigated. The entrapment efficiency of the core material was improved by lowering the volume fraction of the dispersion phase in the (W/O) emulsion and adding the salt to the outer aqueous phase when tricalcium phosphate was used as the dispersion stabilizer. Both the entrapment efficiency of the core material and the internal morphologies of the microcapsules affected the release profiles of the core material.

Keywords [Cross-linked microcapsules, In-situ polymerization, Porous particles, Entrapment efficiency, Emulsion]

Title-Keywords までのフォント、point 等欧文横書き 2 段組印字見本(1/2)に全く同じであるので参照。

13mm 程度

1 Introduction

< 1 行空ける >

本文開始位置

Microencapsulation is a useful method for various applications. The Microcapsule, prevents decomposition of the odor, Provides controlled release of the desired substance. In a previous paper, the authors investigated the Diameter of the pores and spherical hollow structure by in-situ Polymerization⁴⁾.

本文 48 行、11point、1 段組。英数字、括弧、ハイホン等の記号には半角を適宜使用。特殊な用途の文字記号のフォントは指定しない。数式の入力にはワープロ 付属の数式エディター等を用いる。変数等の本文中のフォント式中のフォントは一致させる。その他欧文横書き 2 段組み印字見本を参照

< 1 行空ける >

参考文献番号の記載法：要項 1.7 参照

2 Experimental

< 1 行空ける >

(参考) Table 1 はこの頁に入らないので、次頁に組み入れるように工夫する。

2.1 Materials

The experimental preparation conditions of the (W/O/W) emulsion are shown in Table 1. The inner aqueous phase consisted of a mixture of ascorbic acid magnesium salt and the Model compound (Mw=22,000, hereafter called PVA) or tricalcium phosphate (Mw=22,000, hereafter called TCP10) as the dispersion stabilizer.

【参考】縦方向のレイアウトは改行幅を加減して行う方法と、レイアウト枠を利用する方法がある。
原稿は 600dpi 以上のレーザープリンタによる出力が望ましい。
図例は邦文横書きに段組み版下原稿見本②を参照。

< 1 行空ける >

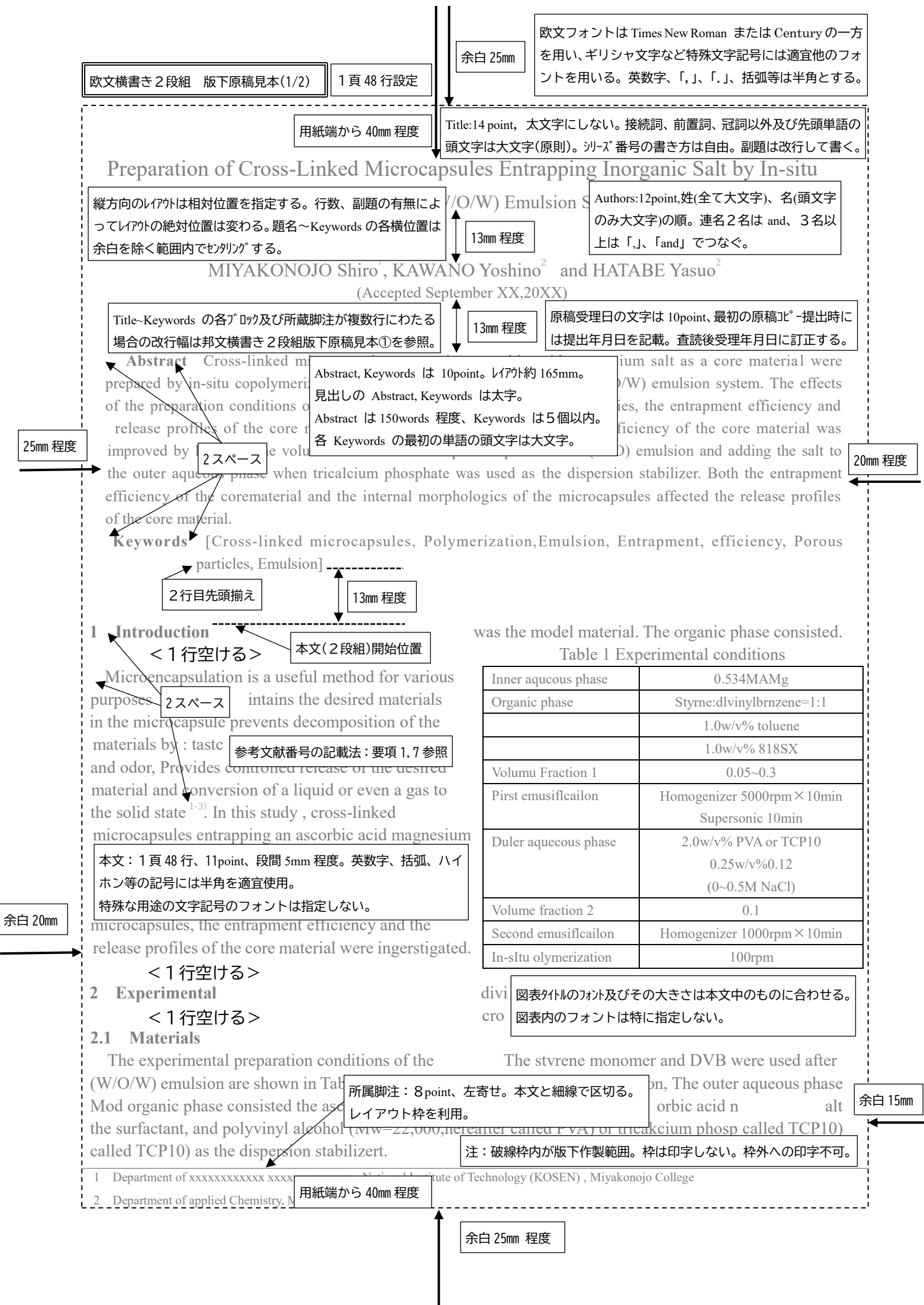
2.2 Preparation method of (W/O/W) emulsion

The (W/O/W) emulsion was performed by the same method as that in a previous paper⁴⁾. The organic phase (total volume=50ml) were put in a homogenizer (MASUDA PH91) and

¹ Department of xxxxxxxxxxxx xxxxxxxxxxxxxx, National Institute of Technology (KOSEN), Miyakonojo College

余白 25mm 程度

注：破線枠内が版下作製範囲。枠は印字しない。枠外への印字不可。



本文はすべて 11point。見出しは太文字。
大見出しの前後は 1 行空ける。
中見出しの前 1 行を空け、見出しの後には改行する。
小見出しの前は 1 行空けず、見出し後は改行する。

spherical pores entrapping an ascorbic acid
ma situ
po in a
(W/O) emulsion
mc base
pro der
various experimental conditions. The following
results were obtained

1. The type of dispersion stabilizer affects the
efficiency of the core material. The use of
TCP10 as a dispersion stabilizer showed a higher
entrapment efficiency compared with that of PVA.
When using TCP10, the particle of TCP10 adsorbed
on the entire (W/O) droplet surface, as a result, the
stability of the (W/O/W) emulsion was increased and
the entrapment efficiency was improved.

2. The entrapment efficiency of the core material
can be improved by the prevention of formation of
large spherical hollows inside the microcapsules. It
was attained by lowering the volume fraction of the
dispersion phase in the (W/O) emulsion, and
controlling the salt concentration in the outer aqueous
phase.

< 1 行空ける >

Appendix

< 1 行空ける >

Power consumption of Kneader mixer is given by
Eq.(A) .

$$P = \Psi(1 + \alpha)(2\pi Rn)^2 RL \mu 175C \quad (A)$$

< 1 行空ける >

Acknowledgement

< 1 行空ける >

Financial support from Japan Science and
Technology Corporation is gratefully acknowledged.

< 1 行空ける >

Nomenclature

< 1 行空ける >

C: concentration	[M] or [w/v%]
E: fractional entrapment	[%]
D: average diameter	[μm]
M: amount of core material	[kg]
R: release ratio of core material	[%]

< 1 行空ける >

Literature cited

< 1 行空ける >

- 1) Ariga, O., K. Itoh, Y. Sano and M. Nagura ;
“Encapsulation of Biocatalyst with PVA. Capsules,”
J. Ferm. And Bioeng., 78, 74-78(1994)

- 2) Cohen, S., T. Yoshioka, M. Lucarelli, L.H. Hwang
and R. Langer; “Controlled Delivery System for
Proteins Based on Poly (Lactic/Glycolic Acid)
Microcapsules,” Pharm. Res., 8, 713-720 (1991)
- 3) Colinart, P., S. Delepine, G. Trouve and H. Rensen;
“Water Transfer in Emulsified Liquid Membrane
Process,” J. Memb. Sci., 20, 167-187 (1984)
- 4) Ijichi, K., Y. Hatate, S. Kiyoyama, K. Shiomori, Y.
Baba and Y. Kawano; “Preparation of Cross-Linked
Microcapsules with Spherical Pores
Polymerization in (W/O/W) Emulsion System,”
Kagaku Kogaku Ronbunshu, 23, 303-306 (1997)
- 5) Kiyoyama, S., K. Shiomori, Y. Kawano and Y.
Hatate; “Entrapment of Water Soluble Material into
Biodegradable Microcapsule Prepared by Solvent
Evaporation,” Kagaku Kogaku Ronbunshu, 24,
791-796 (1998).
- 6) Hatate, Y., K. Kasamatsu, Y. Uemura, K. Ijichi, Y.
Ka
Sty
by
base of
osules
tearic
Acid,” J. Chem. Eng. Japan, 27, 198-204 (1994)

参考文献は著者名、著書論文名、発行機関名、巻、
頁、発行年の順に記載。

【参考】縦方向のレイアウトは改行幅を加減して行う方法と、
レイアウト枠を利用する方法がある。

原稿は 600dpi 以上のレーザープリンタによる出力が望ましい。
図例は邦文横書きに段組み版下原稿見本②を参照。

記号説明を本文中に記載した場合、
この Nomenclature は必要としない。

注：破線枠内が版下作成範囲、枠は印字しない、枠外への印字は不可。

注:「見出し」は、数字(数字間のピリオドは半角)も含めてゴシック体とする。

邦文横書き 2 段組
版下原稿見本②

余白 25mm

注:番号の記載方法:要項 1.8 参照。

以上のような条件にそった RC 教材実験を実現
ことをこの研究全体の目的とする。ここではその第
1 報として、種々の制約のなかで、RC 教材実験を実施するた
め、数式の入力にはワープロ付属の数式
エディタ等を用いる。変数等の本文中
そして試験体の実験挙動のフォントと式中のフォントは一致させる。
った結果について報告する。

(中略)
λ は次式で定義される無次元振動数¹⁾である。

$$\lambda = \omega L \sqrt{\rho / E}$$

(3)

ここで、ω は固有円振動数、ρ は密度である。

(中略)

表面の凹凸による機械的な噛み合いに多くを依存す
る付着機構であることをよく表している。

2 試験体の試作

大見出しの前後は1行空ける。
左端揃え。数字も全角ゴシック体。
数字の後にはピリオドを打たない。
数字と見出しの間は全角空白 1 個。

2.1 概要

試験体は構造部材として最も基本的なスパン中央
に単調集中荷重を受ける単純梁とする。実験を...

(中略)

また、試験体の配筋、コンクリート打設などの製作過
程を学生自らが経験することも生産教育上効果があ
るが、それに特殊な技術を要してはならない。

2.2 試験体の設計

2.2.1 型枠

中見出しの前は1行空ける。後は空けない。
小見出しの前後はともに空けない。
左端揃え。数字も全角ゴシック体。
数字間のピリオドは半角。
最後の数字の後にはピリオドを打たない。
数字と見出しの間は全角空白 1 個。

ことが多いが、こ
このコンクリート曲
(mm)製作用の
利用することとした。その底面を角材と合板で 50mm

余白 20mm

(中略)

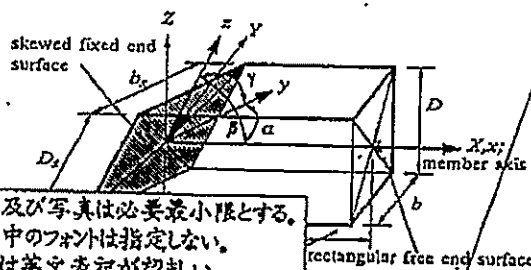
使用した鉄筋の材料特性を Table 1 に、解析対象部材
の形状と座標系を Fig. 1 に示す

単位は SI 単位系(原則)。

Table 1 Material properties of steel bar

Bar	Yield State		Maximum State	
	σ_y (N/mm ²)	ϵ_y (%)	σ_u (N/mm ²)	ϵ_u (%)
D10	348	0.169	486	25.3
9φ	352	0.172	482	25.0
				—
				—

図表及び本文等の一部は切り張りしてよい。
写真は縮尺したものを原稿に貼り付ける。
図表及び写真は鮮明なものとする。



図表及び写真は必要最小限とする。
図表中のフォントは指定しない。
図表は英文表記が望ましい。

Fig. 1 Cantilevered rectangular beam with skewed fixed end and reference coordinates

余白 25mm

5 結論

式番号の記載方法はこの形式とする。
番号の前には「...」や「—」を付けない。
各式番号の横位置を揃える。

この報告では RC 教材実験の意義と現状を述べ、そ
れを時間的制約のある教科実験の中で実現する方法
を...

(中略)

は試験体の条件によって曲げ破壊、せん断破壊、付着
破壊などの RC 部材の基本的な破壊形式を具現化し、
せん断補強筋の効果も表現できることがわかった。

謝辞

この研究は... (中略) ...の
協力を得て遂行したものです。ここに記し、
表します。

余白 15mm

注

見出し「謝辞」、「注」、「参考文献」はゴシック体。
左端揃え。前後は1行空ける。番号は付けない。

1) 無次元振動数は解析対象部材の形態に応じて定義
される。ここでは文献 6) で示されている片持ち平
行六面体に対する定義にしたがった。

参考文献

- 1) 高等専... 参考文献は、編著者名、著書論文名、発行機関
高等専... 名、ページ、発行年の順に記載。
- 2) 谷川恭... 美数字は半角明朝、TimesNewRoman 等とする。
- 3) 清和四士他: 建築構造系科目の宗範実験に基づく教
育方法の改善, 高専教育, No.12, pp.137-144, 1989.2
図表のタイトルのフォント及びその... 構造委員会: 建築構造教育の
大さは本文中のものに合わせる。... する調査研究(建築構造教育
アンケート調査報告書), 平成 8 年 3 月
- 5) 桑村仁, 伊山潤, 松井康治: 工業高校・高専の建築構造
教育に関する調査研究—教育的側面からの地震防
災—, 日本建築学会構造系論文集, No.496, pp.127-
135, 1997.6
- 6) A. Leissa, Z. Zhang: On the Three-Dimensional Vibrations
of the Cantilevered Rectangular Parallelepiped, Journal of
Acoustical Society of America, 73(6), pp.2013-2021, 1983

注: 破線枠内が版下作成範囲。枠は印字しない。枠外への印字は不可。

いきの構造

25mm

40mm 後

← 20mm

枠の横印をしない

あらまし

「いき」という現象はいかなる構造をもっているか。まず我々は、いかなる方法によって「いき」の構造を説明し、「いき」の存在を把握することができるであろうか。「いき」が一つの意味を構成していることはいうまでもない。また「いき」が言語として成立していることも事実である。しかるに「いき」という語は各国語のうちに見出されるという普遍性を備えたものであるか。我々はまずそれを調べてみなければならない。そうして、もし「いき」という語がわが國語にのみ存するものであるとしたならば、「いき」は特殊の民族性をもった意味であることになる。しかるに特殊な民族性をもった意味、すなわち特殊の文化存在はいかなる方法的態度をもつて取扱われるべきものであるか。「いき」の構造を明らかにする前に我々はこれらの先決問題に答えなければならない。

一 序 説

まず一般に言語というものは民族といかなる関係を有するものか。言語の内容たる意味と民族存在とはいかなる関係に立つか。意味の受当問題は意味の存在問題と無用になし得るものではない。否、往々、存在問題の方が原本的である。我々はまず与えられた具体から出発しなければならぬ。我々に直接に与えられているものは「我々」である。また我々の総合と考えられる「民族」である。そして民族の存在様態は、その民族にとって核心的ものである場合に、一定の「意味」として現われ

20mm

九鬼 周造

17mm 後

でくる。また、その一定の意味は「言語」によって通路を開く。それ故

に一の意味または言語は、一民族に一の意味を有する特殊の文化の自

明、歴史を有する特殊の文化の自意味および言語と民族の意識的存在

形成するのではなくて、民族の生

のである。兩者の関係は、部分が

で、全体が部分を規定する有機的構成関係を示している。それ故に、一

民族の有する或る具体的意味または言語は、その民族の存在の表明とし

て、民族の体貌の特殊な色合を著しているはずはない。

もとより、いわゆる自然現象に属する意味および言語は大なる普遍性

をもっている。しかもなお、その普遍性たるや決して絶対的のものでは

ない。例えばフランス語の ciel とか bois とかいう語を英語の sky

wood、ドイツ語の Himmel Wald と比較する場合に、その意味内容は

必ずしも全然同一のものではない。これはその國土に住んだことのある

者は誰しも直ちに了解するところである。Le ciel est triste et beau の ciel と

What shapes of sky or plain? の sky と Der bestirnte Himmel über mir の

一段組部分
タイトル 明朝体一四pt
副題、執筆者氏名 明朝体一二pt

二段組部分
三三三・三〇行 両端揃え
禁則処理
本文 明朝体一〇pt

25mm

限り「いき」の意味を生じては来ない。しかのみならず微表結合の如何によつては「下品」ともなり「甘へ」もなる。カルメンがハバナを歌らうとダン・ジョセに媚びる態度は coquette には相違ないが決して「いき」ではない。なおまたフランスには raffine という語がある。その意味すなわち「一層精細にする」という語から来ていて、「洗練」を意味する。英語にもドイツ語にも移つて行つてゐる。そうしてこの語は「いき」の微表の一をなすものである。しかしながら「いき」の意味を成すにはなお重要な微表を欠いてゐる。かつまた或る微表と結合する場合に「いき」と或る意味で対立してゐる「微味」となることもできる。要するに「いき」は歐洲語としては單に類似の語を有するのみで全然同価値の語は見出し得ない。したがつて「いき」とは東洋文化の、否、大和民族の特殊の存在様態の顕著な自己表明の一つであると考えて差支ない。

もとより「いき」と類似の意味を西洋文化のうちに求めて、形式化的抽象によつて何らかの共通点を見出すことは決して不可能ではない。しかしながら、それは民族の存在様態としての文化存在の理解には適切な方法論的態度ではない。民族的、歴史的な存在規定をもつた現象を自由に變更して可能の領域においていわゆる「イデオロギオン」を行つても、それは単にその現象を包含する抽象的の類概念を得るに過ぎない。文化存在の理解の要諦は、事実としての具体性を喪うことなくありのままの生ける形態において把握することである。ベルクソンは、著微の句を嗅いで過去を回想する場合に、著微の句が与えられてそれによつて過去のことが連想されるのではない。過去の回想を著微の句のうちに嗅ぐのであるといつてゐる。著微の句といふ一定不変のもの、万人に共通な類概念的のものが現象として存するのではない。内容を異にした個々の句があるのみである。そうして著微の句といふ一般的なものと回想といふ特殊なものとの結合によつて体験を説明するのは、多くの國籍に共通なアルファベットの幾字かを並べて或る一定の國籍の有する特殊な音を出さうとするようなものであるといつてゐる⁽³⁾。「いき」の形式化的抽象を行つて、西洋文化のうちに存する類似の現象との共通点を求めようとするの

もその類である。およそ「いき」の現象の把握に關して方法論的考察をする場合に、我々はほかでもなう universalia の問題に面接してゐる。アンセルムスは、類概念を實在であると見る立場に基づいて、三位は畢竟一体の神であるといふ正統派の信仰を擁護した。それに対してロスケリヌスは、類概念を名目に過ぎずとする唯名論の立場から、父と子と聖靈の三位は三つの獨立した神々であることを主張して、三神説の辭りを甘受した。我々は「いき」の理解に際して universalia の問題を唯名論の方向に解決する異端者たるの覚悟を要する。すなわち「いき」を單に類概念として取扱つて、それを包括する類概念の抽象的普遍を向観する「本質直観」を求めてはならない。意味体験としての「いき」の理解は、具體的な、事象的な、特殊な「存在命題」でなくてはならない。我々は「いき」の essentia を問ひ前に、また「いき」の existentia を問ひんきである。一語に於いて「いき」の研究は「形相的」であつてはならない。「解釈的」であるべきはずである⁽⁴⁾。

注

- (1) Nietzsche, Also sprach Zarathustra, Teil III, Von alten und neuen Taten.
- (2) Boutroux, La psychologie du mysticisme (La nature et l'esprit, 1926, p. 177).
- (3) Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience, 20e ed., 1921, p. 124.
- (4) 「形相的」及び「解釈的」の意味は、また「本質」と「存在」の關係についての存在の諸書参照。
Husserl, Ideen zu einer reinen Phenomenologie, 1913, I, S. 4, S. 12.
Heidegger, Sein und Zeit, 1927, I, S. 37 f.

所屬 都城工業高等専門学校 機械工学科

(平成十三年九月九日受理)

1 はじめに

サンプルは Word2013 で作成しました。作成する際に Word2013 のデフォルト設定以外で意識的に施した入力や設定は後述の通りです。

2 設定等

2.1 全体に対しての設定

全体に対して、まず、以下の設定をしました。

- ・上下左右の余白を規定値に。
- ・段組を、2 段、段間を 2 字に。
- ・文字数と行数を、23 字、48 行に。

2.2 最初のページの上部について

本文の上部を以下のように作成しました。

- ・空行に挟みながら、題名副題、著者名・著者名など、Title など、Author など、Received など、Abstract など、Keywords などの文字の行を入力。
- ・これらを中央寄せに。
- ・文字を入れた行について、文字サイズを規定値に設定。Received の行以外は、改行幅を文字サイズの 1.5 倍に設定。
- ・上記の空行の行に全角文字を 1 字ずつ入れ、縦方向の空きが規定寸法になるように、改行幅で調整。
- ・題名、著者名、Title、Author の行で適当に改行。
- ・Abstract と Keywords の行は適当に文字を増加。
- ・Abstract と Keywords を両端揃えに。・ Abstract と Keywords の全体を範囲指定して、ページレイアウト/インデントで左右のインデントを 5mm に。
- ・Abstract と Keywords の前後にダブルスペース。
- ・Abstract と Keywords を太字に。

2.3 学外著者の所属脚注について

Word2013 は、最初はレイアウト枠の挿入や設定のためのボタンが表示されていないため、以下のようにして、2 つのボタンを Word の画面上部左側に表示させました：

- ・「ファイル」「オプション」「クイック アクセス ツールバー」をクリック。
- ・「コマンドの選択」で「リボンにないコマンド」を選択。
- ・「レイアウト枠の挿入」を選択し「追加」、「レイアウト枠の詳細設定」を選択し「追加」、「OK」をクリック。

その後、レイアウト枠を挿入しました：

- ・Word の画面上部左側に新たに出てきている、追加した丸いボタンをクリックし、マウスを斜めに

ドラッグしてレイアウト枠を挿入（高さは数行分の大体の高さ、幅は 2 段分程度の大体の幅で、一旦作る）。

- ・レイアウト枠の枠内で右クリックして「レイアウト枠の書式設定」をクリックし、ダイアログの「文字列と一緒に移動する」のチェックを外し、「OK」をクリック。
- ・レイアウト枠の枠内で右クリックして「線種とページ罫線と網かけの設定」をクリックし、横と下の罫線部分をクリックして（非表示にする）、「OK」をクリック。
- ・学外著者の記事を入力後、文字種、文字サイズを規定値に、行間隔をその 1.5 倍に設定。両端揃えにして中央に適当にスペースを挿入。
- ・レイアウト枠の高さと、上下位置と、左端位置、右端位置を適宜調整。
- ・謝辞と注、参考文献を適当に入力。注と参考文献では、各項目について 2 行目以降の桁下げ位置をやや右に（マウス操作で指示する際に、alt キーを押しながら指定）。